

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970600397		
法人名	有限会社おいていか		
事業所名	グループホームちゃんて		
所在地	奈良県桜井市大福233番の16		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2970600397-00&PrefCd=29&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成28年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の行事やレクリエーションに力を入れており、スタッフや御家族様、地域の方やボランティアの方々のお力をお借りして、様々な事にチャレンジし、また、食事や洗濯物に関して「利用者様と共に」を大切に日々送っています。利用者様の状態が日々変わる中、力を合わせて「安心と安全、楽しい暮らし」を追究し続けております。又、スタッフの離職が少なく、ご利用者にとっての「なじみの関係」が維持継続されているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所「ちゃんて」の玄関に入ると、気さくで優しい職員が出迎えてくれる。居間兼食堂は天窓からの採光が明るく、管理者が描いた絵画が飾られ、イス式のダイニングコタツで利用者が談笑している。「日中をいかに充実して暮らすかが安眠につながる」の考えの下、ラジオ体操から一日が始まる。避難所に指定された公民館までの散歩を日課にし、防災訓練を兼ねる工夫をしている。レクリエーション企画は新任職員が担当し、新しい発想のプログラムで利用者を喜ばせている。また、近隣のホーム協力医と24時間対応できる体制ができており、重度化に向けた支援や看取りのケアも引き受けている。地域行事に参加したり、ホームが催すお祭り等に地域の方を招待して、地域との交流に努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所されたご利用者が今までの交流関係や日々の日課を出来る限り継続できるよう、支援を行う。	理念「人間愛により結ばれ生まれる敬愛と親愛を大切に、個性を生かして介護支援する」を掲示し、管理者と職員は利用者を敬い、ことは遣いに留意して、一人ひとりに応じた支援に努めている。また「安全行動指針」を毎朝唱和して、安全な支援を心がけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の病院、寺院、公民館等と交流を持ち、地域の方々と顔見知りになる機会を作っている。	自治会に加入し活動に参加している。地域の「大福祭」のバザーへ参加して利用者が地元の友達と交流したり、近隣の地域医療を担う病院が催すカラオケやビンゴ大会にも参加している。ホームで行う納涼会、クリスマス会は利用者家族・近隣の方・職員の子どもを招待し交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域主催のイベントに参加し、グループホームの取り組みと認知症へのご理解を呼び掛けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加頂いた方々の専門的知識を参考にし、サービス向上に生かしている	「運営推進会議で、地域の方から防災のアドバイスをもらい親密になった」と会議の必要性を実感し、防災・避難訓練や各種行事に合わせて、会議を開催するなど頻度を高める計画を検討している。会議には介護保険課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、訪問看護センター職員、家族の参加を得ている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連絡を深めるため、月に一度手紙とホームの月刊誌を届けている。	生活保護受給の利用者が数名いるので、市生活保護課から定期的な訪問や連絡がある。また、介護保険の更新手続き時や毎月ホーム便りを届けた折に事業所の現状を報告している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて身体拘束をしないケアをテーマに職員全員で話し合う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う	「身体拘束をしないケア」の研修を実施し理解し共有できている。身体機能低下や85歳以上の高齢の方が、利用者全体の7割を占める現状での夜勤帯の安全性を配慮し、やむを得ず居室に見守りカメラを設置している。重要事項説明書にカメラで見守りの必要な時間帯を(21時～翌日7時)に限定することを記し、見守りカメラの設置を利用者・家族全員の同意を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて虐待の防止をテーマに社内研修を行う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて権利庇護をテーマに社内研修を行う。又、月に一度の定例会議でも見直しを行う		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	体験入所していただき、ご本人、ご家族との十分なご理解と納得を得てからのご契約としている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望や意見は定例会議で話し合い、可能であれば実践を行い、運営に反映させている。	毎日の献立や行事の希望は利用者の意見を聴いて決めている。業務日誌に電話連絡欄を設けたり、アンケートを取って家族の希望も聴いている。御杖村の「姫石温泉」や、宇陀の農園でのバーベキュー等の日帰り旅行を、家族も参加して楽しんでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や、食事会を開き、話し合う場を設けている	新任職員をレクリエーション委員に起用し、新しい発想や意見を受入れプランに反映させる仕組みがある。管理者はヒヤリハット報告を聴いたり、忘年会等でも職員が気軽に話せるよう努めている。今回の外部評価の自己評価票は定例会議で検討して、施設長が作成している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の余暇を有意義に過ごせるよう、勤務時間や、条件の整備を個別に行っている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールに社内研修および社外研修を盛り込み、職員の定期的なリカレント、ブラッシュアップを行う		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互、イベントに参加し合い交流を深める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、しっかり時間をかけて、ご本人の安心を確保していく。スタッフは守秘義務のもと、ご本人の環境や状況、性格等、情報を共有しよりよい関係作りに励む		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を前にして言い辛いことなど、面談、電話、時間構わず承る		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の際にご本人の必要とする介護支援、ご家族が望まれる介護支援を見極め、グループホーム入所が相応しいかどうか、判断により助言を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の得意分野で日常の役割を担って頂いている。調理、掃除、洗濯をスタッフと共に、リビング、室内の飾りつけを皆様と共に。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が、自由にご本人に会えるよう、24時間面会できる又、絆をより良く維持出来るように、互いに支え合う関係作りを大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が、入所後も会いに来れる、又、会いに行ける関係をサポートしている	利用者が地域のバザーやカラオケに参加したり、公民館での月1回のふれあいカフェに遊びに行き、馴染みの人に出会う機会をつくっている。ホームの行事に家族や地域関係者を招いて馴染みの関係作りを支援している。また、利用者が所有する畑に定期的に通っている人もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者同士のコミュニケーションを援助する。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	交流を続けている。一週間に一度は遊びにきていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で希望や意向を聞き賜っている。困難な場合は、本人本位に検討している。	魚料理の得意な利用者の思いを聴き、魚のさばき方を習いながら希望の料理を作って喜ばれたことがある。また利用開始前に必ず自宅を訪問して、これまでの思いや暮らし方を把握し、日々のケアに反映させる工夫をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談の際にご本人、担当の支援専門員から聞き承る		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌と業務日誌にて日々の暮らし方や心身状態の変化を職員が共通認識している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンスにてスタッフおよびご家族の意見を聞き検討、参加できないご家族には電話やメール、手紙にて。	利用者の意見や職員の気づきノートと、家族や主治医からの連絡記録をもとに、利用者の課題の収集に努めている。毎月のカンファレンスで検討し、介護計画を定期的に見直し、出席できない家族には確認を取っている。心身の状況の変化に応じ介護計画を随時見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌と業務日誌にて日々の暮らし方や心身状態の変化を職員が共通認識している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	旅行や美術展示会の開催		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の寺院や老人会、子供会との連携を行う		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療を手掛ける医院との連携	地域医療に取組むホーム協力医による月2回の往診と、月1回の定期健診を受けている。医院はホームから数分の所に位置し、24時間対応である。歯科医の訪問診療や、各科受診にも対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を大切に行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制を整え、ご利用者への医療的サービスを十分に行えるようにしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体験入所時に当ホームの重度化及び終末期のケアの体制をご説明し、ご理解いただく。又、都度その時が来れば関係者と情報を共有し、一丸となり支援を行っている	「連携体制のとれている医療機関と協議の上、施設内での看取りが可能であり適切ならば、希望により行なう」と契約書に謳い、「看取り指針」で検討しながら支援する体制があり、数名の方の看取りのケアを実施している。職員には看取りに関する研修を行い、ホーム協力医と訪問看護の協力を得て取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修にて、看護師や専門職の助言の元、訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に、当施設の避難経路、避難場所を周知いただき、職員は避難訓練を定期的に行っている	避難訓練は年2回、消防署立会いの下で実施している。自動火災通報装置・スプリンクラーを設置している。散歩コースとして医院 寺 公民館(避難所)を歩くことで避難路を覚え、馴染みの関係や協力体制も築いている。地域の第1避難所としては大福地区隣保館もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にてプライバシーの確保に対する研修を行っている	重要事項説明書に個人情報を読らさないこと、人生観や価値観を損なうケアをしないことを謳い、適切なことばかけで対応をしている。プライバシー研修を実施して会議や業務日誌でも確認し合っている。利用者間のトラブルは両者の尊厳を損なわないような対応に努めている。	設置されているカメラに抑圧感はなく、映像を保存する装置はつけていないが、見守りを100%カメラに頼っていないか、他の方法はないかを職員全員で話し合われることを期待する
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者の希望や自己決定が出来るように支援を行う。食事メニューや衣類の選択、希望など、日常生活で選択を楽しんでいただく		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操の時間で、職員はご利用者と話しながら、それぞれの今日一日の暮らし方や希望を聞き承る		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマやカットは美容師の訪問サービスでも楽しむことが出来、日々の生活でもおしゃれを楽しめるように声掛け支援を行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューには出来る限りご利用者の希望されるものを取り入れ調理から配膳も「楽しい話題」としてコミュニケーションを図りながら行う	開所以来手作りにこだわり、利用者の意見を反映した食事作りを心がけている。利用者の希望により、調理の下ごしらえや、簡単な後片付けなどを手伝ってもらっている。外出支援時にショッピングセンターのフードコートに立ち寄ったり、宇陀に所有する畑に出かけてかまど炊きご飯やバーベキューも楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌、業務日誌を活用し、水分と栄養面を職員全員が把握できるようにしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、職員がご利用者と一対一で支援を行い、もれ落ちなく汚れを落とせているか徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を活用し、それぞれのリズムや時間経過を見計らい、トイレ誘導を行えるように工夫している。	利用者ごとに水分量や排泄状態を記録し、パターンを把握して、適時にさりげなく声かけをしながらトイレ誘導を行っているが、おむつ使用の方もいる。便秘症の方には個別に管理し、主治医の指導に沿って対処している。	一人ひとりの排泄表を職員全員が把握し、可能な限りトイレでの自然排泄を促し、オムツはずしの支援に取り組まれることを期待している。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿チェック表を活用し、個々の排便が問題なく行われているかチェックしている。又水分量、運動量なども把握、調整を行い、無理なく排泄できるよう心がけている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の浴槽以外に、温泉へ出かけ入浴を行っている。ご利用者の意向や、季節などによって、入浴時間を変更している	週2～3回個別支援で入浴している。入浴剤やゆず湯等で入浴を楽しんでいる。車イスの方も2名介助で安心して入浴している。ドライブで1時間位かけて、御杖村の「姫石の湯」にも出かけ、気分転換をはかっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間を日誌により職員は把握。場合により日中のお昼寝、早めの就寝などで調整を行う。「よく働き、よく笑う。」をモットーに充実した日中を過ごしていただく。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人日誌に各利用者ごとにファイリングされた処方箋と業務日誌にてスタッフは共通認識を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意なことや、やりがいを感じれることを、日常生活、集団生活の中で活かす取り組み。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温泉、お花見、買い物など、ご利用者様のご希望の場所へ足を運ぶ。その際、ご家族様もご同行いただける場合は、快くおねがいさせて頂いている。	業務日誌に散歩の項目を設けてチェックし、避難所になっている公民館までの散歩を日課として支援している。個別支援の買物でショッピングセンターのフードコートへ立ち寄ったり、季節の花見や芋掘りに出かけている。レクリエーション担当のアイデアでおにぎりドライブ等に柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は買い物外出時に一对一の支援のなか、買い物を楽しんでいただく。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援の中で、スタッフが相手となり、やり取りを楽しむ機会を作っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生管理者、レクリエーション管理者が中心となり、ご利用者が季節感ある中、快適な生活が送れるように工夫を行う	玄関に車イス対応のスロープを設置し、ダイニングコタツ(イス仕様)に車イス利用者も共に集い、おしゃべりやテレビやカラオケを楽しんでいる。部屋はクリスマスグッズで飾りつけられ季節感がある。浴室やトイレ等も清潔で使い易い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	教養空間に3つのテーブルを用意している。おしゃべりテーブル テレビテーブル 一人の時間テーブル		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所決定時より、ご本人ご家族と相談の上、管理者が担当となり使い慣れたものを持ち込ませていただく。その後もレクリエーションの一環で居室の様態替えを楽しむ	使い慣れたタンスを持ち込み衣類は整理されている。、写真や茶道具が飾られている。利用開始前に本人の自宅内の写真を撮り、どう暮らしていたかを知り、模様替え等の参考にしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの「ひとりで出来るためのヒント」を各スタッフが考案し安全で自由ある暮らしを提供できるよう努めている		